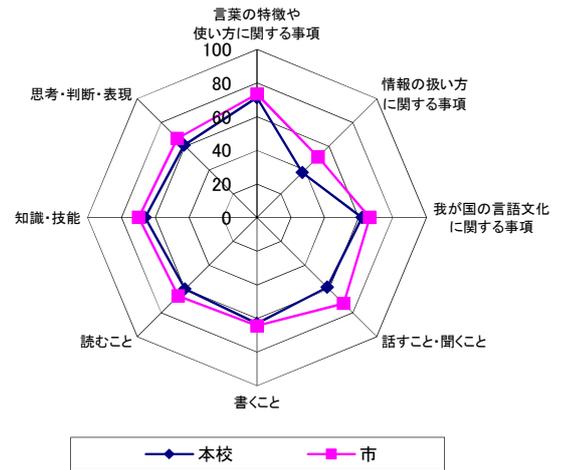


# 宇都宮市立御幸小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.5	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	38.0	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	62.0	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	58.7	72.3	73.7
	書くこと	63.0	64.3	66.6
	読むこと	60.0	65.8	64.9
観点別	知識・技能	66.0	69.8	70.8
	思考・判断・表現	60.9	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

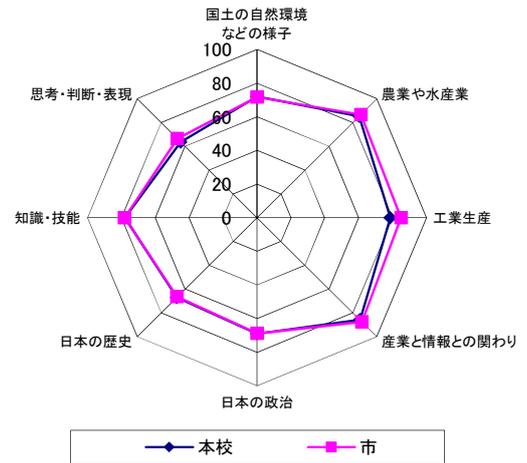
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は71.5%で、市平均より2.0ポイント低い。 ○2段落構成で文章を書く設問では、市の平均を6.8ポイント上回った。 ●熟語の成り立ちや敬語の使い方など、言葉の学習に関わる設問では、市の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や授業の導入、終末等にミニワークを行ったり、場に適した言い方を想像して実際に話す活動などを取り入れたりするなど、多種多様な言葉に触れる機会を意図的に設ける。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は38.0%で、市平均より13.0ポイント低い。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する設問では、市の平均を大きく下回った。	・説明文の内容を情報としてとらえられるよう、要点を短い言葉でまとめたり、ワークシートを活用して比較しやすくしたりして、情報整理の仕方を教える。 ・一つの情報を一つの段落で表すなど、簡単な表現方法からステップアップできるような学習方法を取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は62.0%で、市平均より4.5ポイント低い。 ●和語、漢語、外来語の理解に関する設問では、市の平均を下回った。	・語句の由来を正確に掴ませ、語句に使用されている漢字の意味と繋げさせるなど、字そのものの面白さや理解につながるようワークシートなどを活用する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は58.7%で、市平均より13.6ポイント低い。 ●意図に応じて質問を工夫したり、設問では、市の平均を大きく下回っている。	・例文をもとに相手に質問する練習をしたり、質問練習を重ねながらより良い質問の仕方を考えたりする活動を取り入れる。 ・国語だけでなく、委員会活動や総合的な学習の時間などにもインタビューを積極的に取り入れるなど、「質問し、答える」活動に慣れ親しませる。
書くこと	平均正答率は63.0%で、市平均と同程度である。 ○意見や理由を明確にし、段落構成を考えて指定された長さで文章を書く設問では、市の平均と同程度であった。 ●予想される反論を考え、それに対する意見を文章で書く設問では、市の平均を3.1ポイント下回った。	・ねらいを明確にして文章を書かせるだけでなく、より意図が伝わる表現方法を工夫させたり、字数制限を設け、簡潔に伝える文章を書くことに慣れさせたりする活動を取り入れる。
読むこと	平均正答率は60.0%で、市平均より5.8ポイント低い。 ○描写を基に登場人物の心情や様子を捉える設問では、市の平均と同程度であった。 ●人物像を具体的に想像したり、文章全体の構成を捉えて要旨を把握したりすることが市の平均を下回った。	・情景が思い描けるように挿絵を工夫したり、描写を基にした心情の変化を多種多様な言葉で表現できるよう、語彙力を高める。 ・段落の要点を明確にして比較して考えられるようにしたり、簡潔な文章でまとめられるよう、文章を再構成する活動を取り入れたりする。

# 宇都宮市立御幸小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	72.0	71.6	69.6
	農業や水産業	85.3	86.7	83.7
	工業生産	78.7	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	86.0	87.7	77.4
	日本の政治	69.0	68.9	71.7
	日本の歴史	67.0	66.7	66.3
観点別	知識・技能	78.0	78.0	76.7
	思考・判断・表現	63.8	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

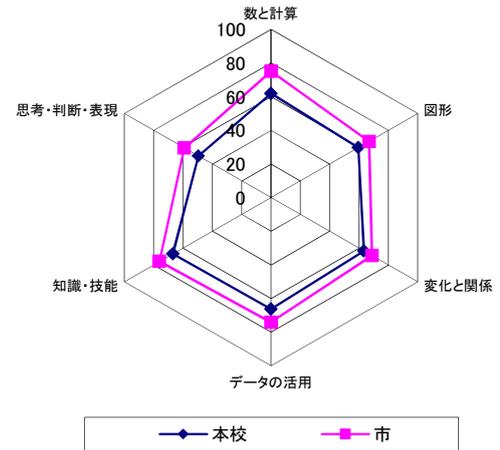
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は72.0%で、市平均と同程度である。</p> <p>○外国の位置と国旗についての設問では、市の平均を2.9ポイント上回った。</p> <p>○日本の主な地形の名称についての設問では、市の平均を2.0ポイント上回った。</p> <p>●国内の林業が抱える課題について考える設問では、市の平均を5.2ポイント下回った。</p>	<p>・基礎的な知識の定着を一層図るため、日常的に地図帳を活用し、日本周辺の海洋や国、領土を確認する習慣をつけ、内容と関連付けて学習することで興味や関心を高めていく。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は85.3%で、市平均と同程度である。</p> <p>○米の生産の工程の理解についての設問では、市の平均を2.4ポイント上回った。</p> <p>●米の生産がさかんな地域について資料をもとに判断する設問では、市の平均を4.5ポイント下回った。</p>	<p>・農産物や水産物の資料や図を読み取る力を付けさせるため、各単元で資料や図から分かることを書く活動を取り入れて、定着を図る。</p>
工業生産	<p>平均正答率は78.7%で、市の平均より6.3ポイント低い。</p> <p>●自動車の製造工程についての設問では、市の平均を7.3ポイント下回った。</p> <p>●日本の工業の特色について資料をもとに表現する設問では、市の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・自動車工場の作業工程の映像資料などを積極的に活用して関心を高めたり、AIドリルを利用して定期的に復習したりして、学習内容の定着を図る。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は86.0%で、市平均より1.7ポイント低い。</p> <p>○さまざまなメディアの特徴について考える設問では、市の平均と同程度であった。</p> <p>●情報の発信と注意点について考える設問では、市の平均を3.1ポイント下回っている。</p>	<p>・日常生活との関連を踏まえ、社会を支える情報の重要性について理解を深め、実際に自分たちが利用している施設などを例に挙げたりすることで、興味をもって学習に取り組むことができるような工夫をする。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は69.0%で、市平均と同程度であった。</p> <p>○天皇の地位について理解する設問では、市の平均を7.0ポイント上回った。</p> <p>●国民と国会と内閣の関係について読み取る設問では、市の平均を6.6ポイント下回っている。</p>	<p>・時事的な話題を学習に取り入れて、関心を高める指導の工夫をしていく。資料から読み取った情報や自分の考えを、伝え合ったり文章にまとめたりする活動を継続的に取り入れていく。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は67.0%で、市平均と同程度である。</p> <p>○江戸時代の鎖国について理解する設問では、市の平均を12.1ポイント上回った。</p> <p>●源氏物語について理解する設問では、市平均を5.2ポイント下回った。</p>	<p>・基礎的な知識を身に付けるために、定期的に復習の時間を設ける。各時代の代表的な人物だけでなく、出来事や文化、行事などにも着目し、それらの関連やその背景について総合的に考えられる力の育成を図る。</p>

# 宇都宮市立御幸小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	62.0	75.1	75.8
	図形	59.4	66.8	68.3
	変化と関係	63.3	68.8	65.0
	データの活用	66.3	74.1	63.6
観点別	知識・技能	66.9	76.1	75.8
	思考・判断・表現	49.5	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

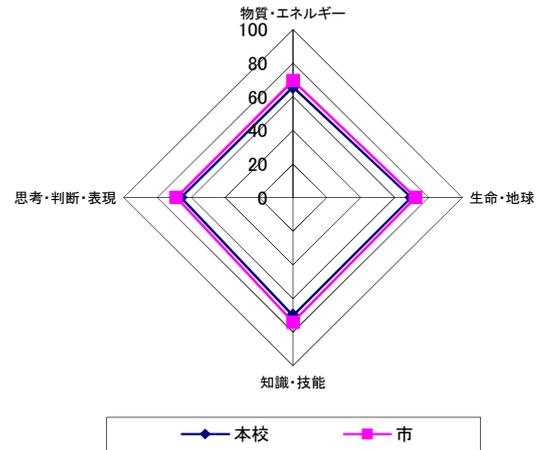
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は62%で、市平均より13.1ポイント低い。 ●小数同士のかけ算、分数同士のわり算やかけ算は、市の平均を10ポイント以上下回っている。	・計算問題については、朝の時間や家庭学習などで計算ドリルやAIDドリルを活用し、継続的に繰り返し行っていくことで定着を図る。
図形	平均正答率は59.4%で、市平均より7.4ポイント低い。 ○点対象な図形の中心から対応する2つの点までの長さを求める問題では、市の平均を3%上回った。 ●線対称な図形の作図の仕方、線対称でも点対称でもある図形を選ぶ問題では、市の平均を10ポイント以上下回っている。	・示された図形が線対称か点対称かを判断できるようにするために、ICTを使って図形を折ったり回転させたりして、感覚的・視覚的に捉えられるようにする。 ・作図の仕方については、授業の時間で自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりする場面を増やしていく。
変化と関係	平均正答率は63.3%で、市平均より5.5ポイント低い。 ○表から面積と数の割合を求め、混み具合を求める問題では、市の平均より1.4ポイント低く、ほぼ同程度であった。 ●速さと道のりから時間を求める問題では、市の平均より9.4ポイント低かった。	・朝の時間や授業の時間などを使って定期的に速さに関する練習問題を行ったり、数直線や図を使ったりして立式できるよう指導していく。
データの活用	平均正答率は66.3ポイントで、市平均より7.8ポイント低い。 ○最頻値を求める問題では、市の平均より1.4%高く、同程度であった。 ●ドットプロットのデータを度数分布表に表す問題や、平均から個数を求める問題では、市の平均を15ポイント以上下回っている。	・平均については、公式だけでなく言葉の意味も合わせて理解できるよう、日常生活の様々な場面を想起させながら、具体的に考えられるようにする。

# 宇都宮市立御幸小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.7	69.5	65.2
	生命・地球	69.8	72.3	70.1
観点別	知識・技能	70.2	74.0	70.7
	思考・判断・表現	66.1	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は65.7%で、市平均よりも3.8ポイント低い。</p> <p>○「ふりこのきまり」の単元では、「ふりこの周期はふりこの長さに依存することを理解し、同じ周期になるふりこを選ぶ」問題で平均正答率が市平均を7.0ポイント上回った。</p> <p>●「物のとけ方」の単元では、「グラフを読み、食塩とミョウバンの水へのとけ方を選ぶ」問題で平均正答率が市平均を16.0ポイント下回った。</p>	<p>・正しい実験結果を選択したり、実験技能に関する問題の正答率は高かったが、資料やグラフを読み取る問題に関しては、正答率が低かった。一人一人の学習の進捗を確認しながら調べ学習やデータを読み取る学習の時間を十分に確保したい。また、共通の体験をもとに話し合い、実験を行う意味や目的、結果から導き出される考察などを考える時間を共有するなど、学びを深める活動を取り入れていきたい。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は69.8%で、市平均よりも2.5ポイント低い。</p> <p>○「植物のつくりとはたらき」の単元では、「予想が正しかった場合の根の断面のようすを推測し、選ぶ」問題で平均正答率が市平均を8.1ポイント上回った。</p> <p>●「動物のからだのつくりとはたらき」の単元では、「かん臓のはたらきについて理解し、あてはまる語句を記述する」問題で平均正答率が市平均を17.5ポイント下回った。</p>	<p>・実際にペアやグループで活動し、自分で観察を行い、確かめたものに関する問題の正答率が高い。全員がより多くの実験や観察に取り組めるように活動を設定し、学びを深めていく。</p> <p>・物質・エネルギー領域と同様、対照実験を行う理由やその条件などを考える活動、実験結果を基にした現象の考察や理解をグループで考える活動を設けることで、さらに学びが深まるようにしていきたい。</p>